

はじめに

「パパさん、そのままでもいいから！ 絶対大丈夫、パパさんを信じて！」

——2023年10月、僕は絶望していた。

「ハッピーニューイヤー！」

暑い中東の地でサッカー日本代表が歴史的な偉業を成し遂げた熱気をそのままに、2023年が幕を明けた。

「今年は大富豪になります！」

その勢いに背中を押され、地元の八幡神社に大奮発の新渡戸稲造を奉納。しかし、そこから10か月で手にした収入は、わずか30万円。

40歳目前の年収が、高校最後のバイトの給料とほぼ同じだなんて。

夢に溢れていた17歳の僕には、絶対に知られたくない現実だ。

あ、重要なことを言い忘れていました。

当時の状況――。

無職。貯金3万円。既婚。もうすぐ2歳になる子どもの父親。

「ふーん（詰んだな）」

……皆さんの心の声が時空を越えて今、僕の耳に届きました（笑）。

そのとおりです。僕の人生は、一度完全に詰んでいるのです。

ここで、僕が年収30万円まで転げ落ちるに至った経緯、そして、この物語の『声』の主である《師匠ちゃん》との出会いをお話ししたいと思います。

自慢じゃありませんが、僕は組織では働けません（本当に自慢じゃない）。

これまで50種以上の仕事をし、履歴書も100枚以上書いています（どや）。

25歳を過ぎてからは職歴欄が収まりきらなくなりました……ははは（笑えない）。

そんな僕が、2019年に人生で初めてスーツを着て会社で働き始めたのです。

しかし、子どもが生まれる半年前に辞職（さらっと）。

そこから、僕は起業を決意します。

その職業は……デイトレーダー！

え？ もう一度言いますか？ 「デイトレーダー」です。

「……（こいつ、ほんまにヤバいな……）」

二度目の皆さんの心の声、ありがとうございます（笑）。

もう、お気づきかもしれませんが、うまくいくわけがありませんでした。

おまけに、深夜も寝ずにトレードしたせいで、自律神経を完全にやられてしまいます。

「これではイカン！」と思い、次に始めたのがWEBライター！

「世の中に無駄なことなんてない！」

その言葉を胸に奮起した結果、トレード関連の高単価案件をいただけようになります。「これで悠々自適の自営業ライフ！」と思ったのも束の間、またも体調を崩し、2か月でこの仕事も辞めることに。

そして、運命の日がやってきます。

まだ残暑が厳しい2023年10月某日。

丸椅子に腰掛けた僕の前には、HUAWEIのノートパソコンに映る、就職サイトからダウンロードされたばかりの履歴書テンプレート。左手のそばには、息子の小さな手の温もりが残るリングジュース。右手には、動きの鈍くなったマウス。そして、視界の隅には、先行きの不安を静かに突きつける、残高3万円を切った通帳が横たわっている。

僕は、「理想」から「現実」への境界線を跨ぐようとしていました。

そのときの心境を一言で表すなら「とにかく悔しい……」。

会社を辞めたとき、僕は自分自身にこう誓ったのです。

「これから何があっても個人事業主として生きていく！」と。

……それなのに。

情けなさど悔しさが自分を押しつぶし、妻の顔もまともに見られない毎日。

夫失格の烙印を自ら押し、不機嫌な姿を息子に見せる日々。

自暴自棄になっていました。

誰にも言えない悩みとストレスに押しつぶされ、涙が止まりません。

会社で働きたくないわけではなく、ただ自分自身が情けなくて、悔しくて……。

そんな僕を、ベビーゲートの中でつかまり立ちする息子が不思議そうな顔で見つめていました。

僕はジーパンのポケットにあつた某携帯電話会社のティッシュを引き抜き、涙と鼻水を拭き、ま

だ言葉も話せない息子に助けを求めるように近づきました。

生まれてから3倍ほど成長したその体を息子が持ち上げたその瞬間――。

「パパさん、そのままでもいいから！ 絶対大丈夫、パパさんを信じて！」

どこからともなく、その声が聞こえたのです。

僕と息子しかいない室内。誰かがいるのか、虫の知らせか、それとも僕自身の心の叫びか。ただ、それは間違いなく、人の声。でした。僕は右腕に浮かぶ鳥肌を眺めながら、こう思ったのです。

「自律神経、またやられたか？（笑）」